令和7年度 第1回 甲賀市国民健康保険運営協議会 議事録

1. 開催日時 令和7年7月31日(木) 14:00~15:15
2. 開催場所 甲賀市役所 別館1階 101会議室
3. 在任委員数 18人
4. 会議出席者 運営協議会委員 15人
被保険者代表 : 中村委員、吉田委員、吉川委員、
奥山委員
保険医、保険薬剤師代表 : 中西委員、塩澤委員、
村木(信)委員、渡邊委員
公益代表 : 池本委員、岡本委員、辻委員、
西田委員、村木(育)委員
被用者保険代表 : 井原委員、北村委員

事務局

市民環境部 保井部長、西野次長、
健康福祉部 圖司次長、すこやか支援課 中村係長
税務課 大西課長
保険年金課 岡崎課長、米倉課長補佐、市井係長

5. 欠席委員 奥村委員、北川委員、阿部委員
6. 傍聴 0人
7. 会議次第
 - 1) 開会
 - 2) 市民憲章唱和
 - 3) あいさつ
 - 4) 報告
 - ・令和6年度 国民健康保険特別会計決算見込について
 - ・甲賀市国民健康保険の状況について
 - ・第3期国民健康保険保健事業実施計画の進捗状況について
 - 5) その他
 - 6) 閉会

8. 会議の概要

(開会)

(市民憲章唱和)

(あいさつ)

会 長：あいさつ

市民環境部長：あいさつ

(委員交代の報告)

(報告)

○令和6年度 国民健康保険特別会計決算見込について (資料1)

○甲賀市国民健康保険の状況について (資料2、参考資料1)

会 長：一括して事務局から説明をお願いします。

事務局：資料説明 (資料1、2、参考資料1)

会 長：意見や質問はないか。

委 員：子ども子育て支援の部分についてお聞きする。こういう制度は素晴らしいことだとは思いますが、18歳以上の方は一定負担することになるということだと思ふ。

どれぐらい負担が増えるかわからないということだが、現在でも保険料はますます高くなっている状況である中、これにさらに加えて負担が増えるということになると滞納も増えるのではないかと思う。しかも子どもの構成、18歳までの構成でいうとわずか全体の数%でしかないのに、18歳以上の人が全部お金を払うということになると、取り過ぎになるのではないかという気がして、少し何か変だなと思う。

事務局：子ども子育て支援金については、当初、この制度ができるということになったときに、こども家庭庁が試算で出された金額だと、国民健康保険の場合は、一人当たり月額250円、一世帯あたりで月350円くらいになるのではないかとということで、試算を出されている状況である。それ以降、具体的にどれぐらいの率になるのかという数字についてはまだ出ていない状況で、均等割、平等割、所得割等がどれぐらいになるかによっても、所得の状況等によって、金額には大分差が出るのではないかということは考えている。また言われたように、国保税の率を引き上げている状況であるので、滞納

についてはこちらも心配をしている状況である。丁寧な説明の中で、納付いただけるように努めていきたいと考えている。

委員：できたら、毎年払っている所得税や住民税から賄ってもらえたらどうかとは思う。

事務局：実はこちらの方はこども家庭庁ができたときに、3年間は国費で子育てにかかる費用を持つけれども、令和8年4月からは国保だけではなくすべての医療保険でご負担をお願いするという事で決まっている。国民への周知を国がまだまだされていない状況だが、どうやって賄うかということで、今均等割という形ではどうかのお話があったが、もちろん、均等割だけでなく、所得割、均等割、平等割という形では課税させていただくことになるので、所得の多い方にはそれに伴って、少し負担を増やさせていただくということになる。所得税ではなく、こういった形でということはおもうすでに国の方で決定されていることで、市の方でそれを変えるということとはできない状況であるので、ご理解いただけたらと思う。

○第3期国民健康保険保健事業実施計画の進捗状況について（資料3-1、3-2）

会長：事務局から説明をお願いします。

事務局：資料説明（資料3-1、3-2）

会長：質問や意見はないか。

委員：資料の9ページのジェネリック差額通知のところでお伺いする。こちらは今ジェネリック利用率の部分で、金額ベースであったり、バイオシミラーの数字が求められないというところがあるかと思うが、そういった取組とか今後予定されていることがあればお聞かせいただきたいというのが一点。次に、資料3-2に関してで、協会けんぽでもやはり同じように健診の受診率は一定あるけれども、保健指導の利用率がなかなか伸びていかないという、同じ課題がある。

我々が今年度から新たに取り組んでいるのが、そもそも指導対象にならないようにということで、大体健診は毎年同じ時期ぐらいに受けられる方が多いので、この時期に受けられるだろうなという少し前ぐらいに、昨年の健診結果がメタボ予備群だった方に対して通知をお送りして、事前の注意喚起を促すような取組を今年度新たに始めている。この事業で効果が出るようであれば、市にもご紹介させていただいて、取組を共に進めていければと考えているので、その際はよろしくお願ひしたい。

事務局：一点目のジェネリック差額通知に関することで、金額ベースでの目標設定であるとか、そういったところについては国からも話が出ているが、こちらについては国保連合会で効果の検証等を行ってもらっており、現時点では金額ベースでの率等が出せない状況であるので、今後、国保連合会と連携して、そういった目標設定もしていきたいと考えている。バイオシミラーについても普及に向けて、周知啓発等を行っていきたくと考えている。二点目の指導対象にならないように事前に通知をされるということで、国保ではそういった取組をしていないので、また効果等わかったら情報提供いただいで、一緒にできるようなことであれば、また協力させていただきたいと思う。

委員：特定保健指導がなかなか受けてもらうのが難しいということだが、信楽で実施の結果説明会と同時にすると、効果があったということが出ている。同じような取組を他の地域でしていくことは難しいのか。

事務局：信楽地域については今現在、市立の病院の信楽中央病院とともに取り組んでいるということで、やりやすいというところがある。ただ、効果があるのは事実なので、現在、他の地域でもできないかということで、他の地域の先生との調整を図っているところであり、その調整がうまくいけば他の地域でも実施をしていきたいと考えている。

委員：データヘルス計画の7年度の事業計画で、歯周疾患検診の勧奨について840人というのは、どういう方が対象となっているのか教えていただきたい。

事務局：歯周疾患検診については、昨年度は30歳の方全員に勧奨をお送りさせていただいた。

委員：30歳にというのは、その節目年齢にということでの設定なのか、それとも、とりあえず30歳に今年はするということでの送付なのか。

事務局：この検診は対象が30歳から70歳になっているので、はじめて対象になる節目の30歳にということで送付した。

委員：今年度はどういう対象に送付する予定か。

事務局：今年度については対象を増やして、30歳と40歳の方へ送付する予定。

委員：資料の9ページの重複頻回の訪問事業について、重複頻回の実施が1名ということだが、実施できた割合、候補者が何人ぐらいいて、そのうちの何人に実施できたのか、が分かれば教えていただきたい。

事務局：重複頻回受診については、こちらの事業も国保連合会と連携をしており、国保連合会が委託されている事業者が訪問での指導を行っていて、対象は今数字を持っていないが、もう少しいたかと思う。また、対象から除外する場合もあり、例えば介護認定を受けている方等も除外するというのもあるので、基本的には除外にならなかった方にはすべて訪問に行けたと聞いている。

会 長：対象になった方、除外した方を除いた人数が1人ということか。

事務局：そうなる。

会 長：その他、この案件以外でも意見、質問等あるか。

事務局：こちらから一点、もし情報があればということで、子ども・子育て支援金について、被用者保険ではどのような状況であるのか、また周知等をどうされているのか、何かあれば教えていただきたいと思う。

委 員：子ども・子育て支援金については国から金額が示されるので、それを待っているというところで、今現在、保険料率換算してどれぐらいになるのかというのは我々の方もまだ全然分かっていないという状況である。
我々支部の方で評議会ということで、こういった形で学識経験者の方とか、事業主の代表の方、被保険者の代表の方からご意見をいただく機会というのがあり、やはりその中でも、この子ども・子育ての分で負担が増えるので、健康保険料率を下げるなりをして欲しいというようなご意見が出ているというのはある。それぞれ別の制度であるので、子ども・子育ての分の穴埋めのために健康保険を下げるというの、全く別制度、違う会計のものになるので、それが適切なかどうかというところがあるが、意見としては出ている状況である。

委 員：別会計であるので、他でその分下げるというのも、またそれもおかしいということか。

委 員：先ほど事務局が言われたとおり、国の方で定められたルールであるので、医療保険制度の枠組みを使うということであって、我々、保険者がお金をもらおうとかというわけではない。

結局、協会けんぽでも国保も同じだと思うが、納めていただいたお金が我々の方に入って、何か給付をするとか、使うという部分ではないので、国の定められた枠組みの中に我々としても入れられてしまっているというような形なので、保険者でどういうふうにするかを決めることでもないというところは

ご理解をいただかないと、仕方がないかなとは思っている。

会 長：一点質問だが、前年度に保険税率を上げるということで、いろいろ何回もご審議いただいたところで、それによって税率が上がったというところだが、それに対して、被保険者から何か苦情とかご意見とか、そういうものがなかったか。

事務局：特段、そういった苦情等は聞いていない。

会 長：その他、全体とおしての意見、質問、または委員からも報告等あれば願います。

委 員：(警察共済組合委員より) 特殊詐欺等について注意喚起の情報提供。

事務局：今の話に関連して、先日、マイナ保険証に制度が移行して、資格確認書等をお送りしたところ、そのタイミングで怪しい電話がかかってきたというような話が何件かこちらにも連絡があった。「制度が変わるので、よくわからない方は連絡をしてきてください」といったような内容で、海外を經由した電話番号からの電話が何件か入っていたような状況である。本当にそういう制度が変わって、皆さんがよくわからないような状況の時に、いち早く対応して、そういう詐欺を考えているのだなと感じたところであったので、関連してご報告だけさせていただいた。

事務局：今後の予定について、次回2回目の運営協議会を12月に予定している。

会長代理：閉会あいさつ

上記は、令和7年7月31日開催の甲賀市国民健康保険運営協議会 議事録正本である。

甲賀市国民健康保険運営協議会

会 長